

CARE World

生きるチカラを信じて支える

Vol. **19** ケア・インターナショナル ジャパン
Newsletter
Oct 2011



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界70カ国で貧困の根源の解決に取り組む国際協力NGO、CAREの日本事務局です。CAREの活動は、世界中の33万人のサポーターに支えられています。

Contents

- page 1 柳井俊二名誉会長の就任
- page 2 宮古事務所からの報告
- page 3 企業と CARE のパートナーシップ
- page 4 アフガニスタン新規事業紹介
- page 5 CARE×MDGs
- page 6 事務局からの報告
- page 7 スタッフ紹介
私スタイルの CARE ライフ
- page 8 CARE ストーリー

柳井俊二名誉会長の就任

ご挨拶

この度、光栄にも名誉会長を仰せつかりましたので、自己紹介を兼ねて一言ご挨拶申し上げます。ケア・インターナショナル ジャパンの幅広いご活動につきましては、平素より敬意をもって拝見しております。ハンブルグに常駐しておりますので、隔靴搔痒の感がありますが、少しでもお役に立てればと思います。私は、長年奉職した外務省を2002年に退官し、大学教授や会社役員を致しましたが、2005年より国際海洋法裁判所の裁判官を務めております。

私が外交の仕事に飛び込んだ背景は、次のようなものです。私達一家は、1941年の真珠湾攻撃の時、父の仕事の関係で南米のコロンビアに居りました。南米諸国が米国の圧力で対日宣戦布告をすると、南米の在留邦人達は、敵国人として米国に移送されて抑留された後、中立国の汽船で日本に送還されました。日本で抑留されていた米国人達も居りましたので、中立国ポルトガルの植民地、モザンビークで日米の抑留者達が交換されました。北米で乗船し、ブラジル経由で大西洋を渡り、南部アフリカのモザンビークで米国人達と交換された後、インド洋、マラッカ海峡等を経て私達が横浜にたどり着いたのは、コロンビア出発から約4ヶ月後でした。太平洋は日米両国の戦場でしたから、大変な遠回りをしたわけです。小学校に上がる半年前でしたから、アメリカ潜水艦に脅かされながらの異常な船旅は記憶に鮮明です。帰国後間もなく東京大空襲が始まり、長野県に疎開しました。戦後の東京は自宅を含め一面の焼け野原でした。四谷見附の土手に登ると、辛うじて焼け残った新宿の伊勢丹と二幸が目に見え、肝をつぶしました。米国で抑留されていた間、広大な先進工業国アメリカを見て「日本は負ける」と子供ながらに確信しました。この幼児体験が私を外交の世界、平和を求める世界に駆り立てたのだと思います。

在官中も、アジア・アフリカで貧困や戦争被害に直に触れました。また、退官後もカンボジア・タイ国境で対人地雷を除去するNPO活動に参加し、悲惨な境遇の人々に接しました。多くの同胞達が東日本大震災による地震、津波、原子力災害の三重苦に今なおあえいでいることにも胸が痛みます。政府が為すべきことは多々ありますが、非政府団体にできることも大変多いと思います。ケア・インターナショナル ジャパンの名誉会長をお引き受けした以上、遠隔地での制約はありますが、できる限りのお手伝いをさせていただきますと存じます。



©ITLOS

国際海洋法裁判所

所長 柳井俊二

東日本大震災被災者支援事業

～宮古事務所からの報告～

岩手県沿岸部を南北に通る国道45号線を通り、宮古事務所のスタッフは毎日現場へ出かけています。未だに大きな傷跡の残る海岸線ですが、その風景は少しずつ変わってきました。当財団の活動も、緊急段階の炊き出しなど「食糧支援」を経て、現在では復興へ向け急速に新たな広がりを見せています。日本中、世界中から寄せられた、たくさんの思いを受け、被災地は確実に復興に向けて歩んでいます。

生活支援事業

Community Relief and Development

生活支援事業では、これまで、①生活物資の配布、②小中学校への教育支援、③オリジナルTシャツの制作を実施してきました。

生活物資の配布では、270組の敷布団セットと220枚の寝ごさを避難所に、18,000枚のタオルケットを仮設住宅に配布しました。避難所や仮設住宅での厳しい生活環境の中で、必要な物資も季節とともに変化していきます。今後も状況に合わせた物資の提供を実施する予定です。

小中学校への教育支援では、被災した3つの小学校へ39点の楽器・器材を寄贈し、中学校へ179点の学習教材を提供しました。遊び場を失い、心に大きな傷を負った子どもたちに、できる限り楽しく学校に通ってもらえるよう、これからも学校の支援を続けていきます。

オリジナルTシャツの制作では、デザインを地元の方にお願ひし、4パターン1,100枚のTシャツを制作しました。地域の絆を深めるために制作した地元限定のTシャツはとても好評で、皆さん、伝統芸能の練習着としても使って下さっています。

(宮古事務所 生活支援PM 岡野 鉄平)



学習教材を使って学ぶ中学生たち

心のケア事業

Psychosocial Support

心のケア事業では、①コミュニティカフェ支援、②伝統芸能・お祭り支援、③コミュニティ新聞の活動を中心に行っています。

コミュニティカフェ支援では、山田町の社会福祉協議会と協力して、仮設住宅の集会所の前にテントや椅子を設置し、仮設住宅で暮らす方々を対象に毎週水曜日、午前の部・午後の部と2回のお茶会を行っています。交流を通じて、少しでも多くの方が孤独感を抱えないで新しい環境の中で安心して生活できることを目的として行っています。

伝統芸能・お祭り支援では津波で被害にあった山田町と大槌町の19の団体を対象に伝統芸能で使用する衣装や太鼓等の支援、またお祭りの準備などの支援を行っています。長年培われてきた伝統を次世代に伝承し、踊りを披露して、お祭りを復活させることで、町の活気と人々の絆を取り戻すことを目的として行っています。

コミュニティ新聞では、町で起こった出来事や、イベントやお店の再開などの地域情報を、避難所や仮設住宅に配布しています。一般の新聞や広報などではカバーできない日常生活に役立つ情報を提供しています。

(宮古事務所 心のケアPM 玉熊 諭)



コミュニティカフェで談笑する参加者

桜の季節が過ぎ、暑い夏も終わり、東北はこれからまた厳しい冬を迎えます。被災された方々が、少しでもその痛みを和らげ、全力で復興に取り組めるよう、宮古事務所はこれからも地域とともに歩んで参ります。

プロボノ最前線!

デロイト トーマツ コンサルティング有志による「中期計画策定支援」

デロイト トーマツ コンサルティング(株)は、幅広い業界の企業の経営戦略・事業戦略立案支援やその着実な実行支援までを一貫して手がける総合経営コンサルティングファームです。今年7月より、社内有志のプロボノ(注)チームの支援を得て、当財団は、3ヵ年中期計画策定に取り組みました。

具体的な目標と目的の事前共有、明確な役割と責任の確認、全体のスケジュールやマイルストーンの共有と進捗管理、そして何よりもCAREのビジョンへの共感とチームワークに基づく個々の献身的な取り組みにより、無事、新たな中期計画がまとまりました。

丸4か月に亘り、膨大な調査分析に裏付けされた数値目標の設定や戦略の立案、また実行計画策定に至るまで、まさしく企業経営と同様の手法を一環して体験することができました。中期計画を策定する「プロセス」を共に進めることができたことは、今後、当財団がその計画を振り返り、また新たな計画を策定するときの道標となることは間違いありません。まさに、プロボノの特異性の1つは、団体職員の能力向上や組織の基盤強化を伴う活動であり、プロジェクト終了後も持続的に効果が続くことだと思います。

今回、書類として明確に落とし込まれた中期計画ですが、これを着実に実行した暁には、CAREのビジョンである「貧困が



事業部・マーケティング部・総務部それぞれの「事業別戦略」を最終確認する局内報告会にて、ありがたい姿を実現するための戦略を、全スタッフで共有しました。

克服され、人々が尊厳をもって安全に暮らすことのできる世界」へ向け、より大きな社会的なインパクトを与える存在(組織)となると信じ、これから組織全体で取り組んでいきます。

(注) プロボノとは、「社会人が、仕事を通じて培った知識やスキル、経験やノウハウなどを活かして社会貢献すること」です

(マーケティング部 高木 美代子)

デロイト トーマツ コンサルティング様からのメッセージ



左より廣瀬氏、田中氏、山内氏

弊社は専任のチームを設けて、ケア・インターナショナル ジャパンの方々と共に、今後3年間の活動計画を描いてまいりました。

企業との風土の違いなど難しい局面もありましたが、今回のプロボノを通じて、私たちの日々のビジネスの世界では接することが少ない、国際情勢や国際協力事業が直面している課題・国際支援にかけるスタッフの方々の情熱に触れることができました。支援の形は違えど、私たちは、自身の専門性を活かしてCAREを支援することで、CAREのその向こうにいるアジアやアフリカの貧しい人々の役に立つことができると信じています。

今、いろいろな形でのプロボノが求められており、単発の支援だけでなく、週末や月1回など仕事とのバランスを取りながらプロボノ活動を継続的に行っていくことも、大きな効果が期待できます。ビジネスとまた違った形で、自身のスキルを社会に役立たせるために、ぜひ多くの方にCAREとのプロボノにチャレンジ頂きたいと思います。

(コンサルタント 山内氏、コンサルタント 田中氏、ビジネスアナリスト 廣瀬氏)

「プロボノ」募集!

以下の専門性をお持ちの方、CAREの活動を通じて社会貢献してみませんか?

これまでのキャリアを通じて培われた知識やご経験を活かしつつ、CAREが支援をしている東北被災地そして世界とのつながりを、きっと感じていただけます。単発のボランティアではもの足りない方、自身のスキルをダイレクトに活かすことでより高い達成感を得たい方、もっとNGO活動の真髄を知りたいという知的好奇心あふれる方など、お待ちしております!

■マーケティング分野

特に、WEBマーケティング、モバイル・マーケティング、ソーシャル・メディアマーケティング、各種調査分析(データ収集・ヒアリング等を含む)等の専門性をお持ちの方

■広報分野

特に、校正、翻訳、DMデザイン、広報誌編集、イベント・キャンペーン企画運営、写真撮影、動画編集等の専門性をお持ちの方

詳細は、当財団HP (www.careintjp.org 参加する>プロボノ) をご覧ください。ご関心のある方は、ぜひ事務局 (probono@careintjp.org) までご連絡をお待ちしています。

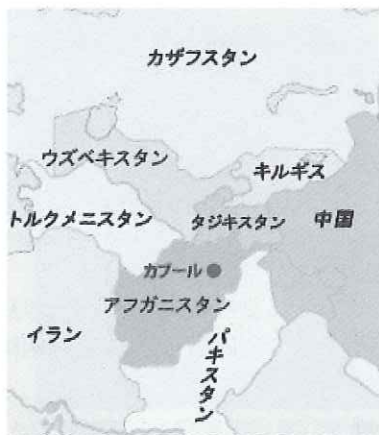
※別途、お気軽にご参加いただける「ボランティア」についても随時募集中です。

アフガニスタン

「遠隔農村地域における コミュニティ運営による初等教育事業」 を開始しました

当財団では、JPF（ジャパン・プラットフォーム）のアフガニスタン・パキスタン人道支援の一貫としてJPFより資金援助を受け、本年3月より5ヵ年計画で、アフガニスタンのパルワン州とカピサ州において特に女子を対象とした初等教育プロジェクトを開始しました。

▶プロジェクトの目的と背景◀



世界的には就学率での男女平等は達成されつつありますが、一部地域の女子にとっては教育を受ける機会はまだ限られています。アフガニスタンでは、子どもたち、特に女子は、タリバンの支配下にあった1990年代半ばから2001年までの間、学校へ行くことや教鞭をとることが禁じられ、公



現在進行中の初年度は30校を新設。約920名の子どもたちが学校へ通っています。

的な教育を受けることができませんでした。1990年の終わりまで、学校へ通えた女子は全体のわずか5%。その一方で60%の男子が教育を受けたとされています。

このような状況を踏まえ、このプロジェクトは、コミュニティ運営の学校の設立や強化を通じて、就学年齢にある子どもたち、特に行政サービスが行き届いていないパルワン州とカピサ州の遠隔農村地域の女子に対して、良質な初等教育を提供し、より多くの女子が教育を受ける機会を得られるよう支援します。

また、女性の学校運営委員や教師の育成及び能力向上を図り、女子が就学し易い環境作りを支援します。女性の学校運営委員や教師がお手本となることで、自主性や意思決定能力など、女子が社会活動へ参加できる能力を向上することもこのプロジェクトの大きな目的の一つです。



ワークショップに参加する女性教師たち

▶主な活動内容◀

●授業の質の改善

教師に対して、科目、教授法、授業オリエンテーション、学校運営、衛生、実践的監視等に関する研修を行います。

●教育に必要な物資提供

全ての生徒に対して、ノートや鉛筆等の文具に加え、学年毎の教科書を配布します。また教師に対しても、参考となる教授教材とともに、教科書や文具等を配布します。

●生徒の学力評価

筆記および口語による試験を通じて学力評価を定期的に行い、教育の質の向上を測ります。また教師に対しては、試験構成や復習授業を含む評価法についての研修等を行います。

▶事業目標◀

- 85校（教室）のコミュニティが運営する学校の設立を目指します。
- 85名の教師（そのうち女性30%）の育成を目指します。
- 教師及びコミュニティで構成される学校運営委員会メンバー 85組織 / 255名（そのうち女性30%）の能力向上、教育への理解促進を目指します。

このプロジェクトを通じ、
合計2,550名の生徒（そのうち女性60%）に
「教育の機会」を届けます

（マーケティング部 甲斐 博子）

～貧困問題の根源を紐解く～

テーマ「ジェンダーの平等推進と女性の地位向上」

2000年、日本を含む世界189カ国の代表が「2015年までに世界の貧困を半減すること」を目指して交わした約束、MDGs（ミレニアム開発目標）。今回のテーマは、その3番目の目標である「ジェンダー（注）の平等推進と女性の地位向上」です。今回は、教育と労働市場における男女の格差について紹介します。

1) 貧困が女子の教育への大きな障壁に

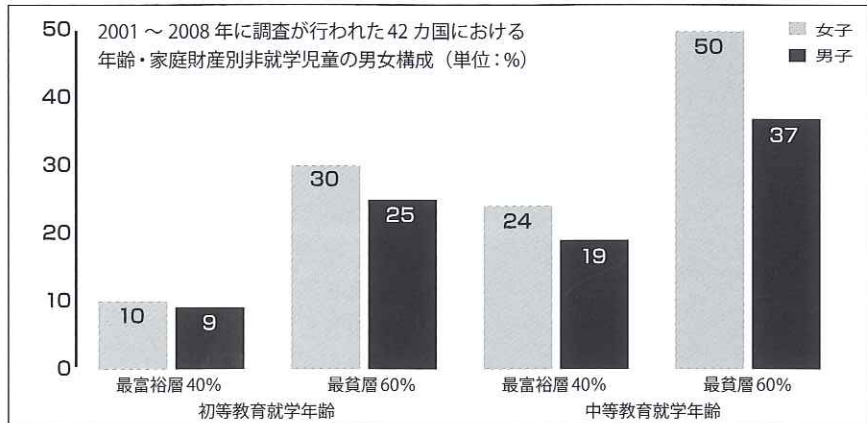
今回のテーマである第3目標の具体的なゴールは、「2005年までに初等・中等教育において、2015年までにすべての教育レベルで、男女格差を解消する」です。

開発途上地域全体では、就学率での男女平等は達成されつつあります。2008年の男子生徒100人あたりの女子生徒数は、初等教育で96人、中等教育で95人となっています。ちなみに、1999年では、この数字はそれぞれ91人と88人でした。

一方で、今もなお、貧富の差が、教育における格差にも影響を及ぼし

ています。初等教育就学年齢にある最貧困層世帯60%の女子は、最富裕

層世帯の女子に比べ、学校に通えない可能性が3倍に及びます。



出典：国連ミレニアム開発目標報告2010

2) 労働市場においては、女性は手当ても保障もないインフォーマルな職に

労働市場においても、男女の平等の確保が課題となっています。CIS諸国を除く全ての開発途上地域で、男性が有給労働者数で女性を超過しています。女性は男性に比べ、賃金が低く不安定な職に就いていることが多いのが現状です。

特に農業が主要産業となっている国々では、女性のほとんどが零細農業で、無給の家内労働者として、ま

たは自営労働者として不安定な職に就いており、金銭的な安定も社会的な恩恵もまったく、あるいはほぼ得られていません。

また、近年の金融危機により、正規雇用者の失業が大量に生じた結果、非正規での雇用が急増。一部の開発途上国においては、労働者全体の80%以上が家族所有の未法人企業の所有者、そこで働く家内労働者、あ

るいは契約書も社会保障もない従業員（自宅勤務の請負業者や家事労働者を含む）とされています。そして、このような国々では、多くの場合、非正規雇用者の大半を女性が占めています。先進国でも同様の状況であり、日本においても、女性の非正規雇用者が増加しています。

当財団は、左記アフガニスタンでの事業はもとより、東北の被災地においても、就業のために保育園に子どもを預ける母親を対象にした心のケア「ママカフェ」等の活動を展開するなど、特に「女性や子ども」への支援を強化しつつ、今後もジェンダー問題に積極的に取り組んでいきます。（マーケティング部 甲斐 博子）

（注）ジェンダー概念

竹村和子（2002）「ジェンダー」、『岩波 女性学事典』、岩波書店、pp.163-165。

ジェンダーの定義は概ね4つの側面から捉えられる。1)「社会的・文化的に創られた性別・性別役割」であることにおける「構築性」、2)性のダブルスタンダードなど性の「非対称性」の側面、3)優位・劣位関係を組み込んだ性別秩序の「階層性」の側面、4)人種、民族、宗教、年齢など「他の階層問題とジェンダーとの重層性」の側面にわたるもの。



ベトナムの医療機関に設置されたHIV情報コーナーで働く女性

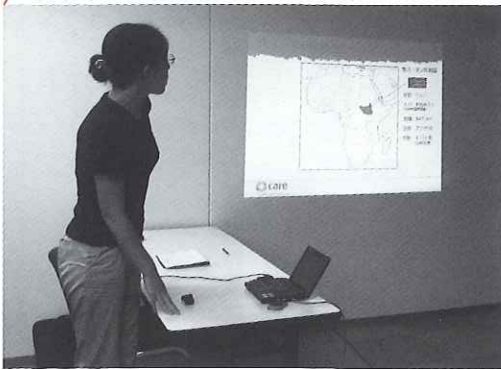
事務局からの報告

寄付金にかかる税額控除制度に関するお知らせ

当財団は、「現下の厳しい経済状況及び雇用情勢に対応して税制の整備を図るための所得税法等の一部を改正する法律」が成立・施行されたことに伴い、税額控除制度の適用を受けるための申請（パブリックサポートテスト）を行い、平成23年8月1日付で、正式に認定されました。

これまで、当財団のような公益財団法人への寄付金については、確定申告の際の「所得控除」が認められていましたが、今回の認定により、寄付者の皆さまが「所得控除」か「税額控除」かを、ご選択いただけるようになります。今回導入された税額控除制度は、とりわけ小口の寄付金支出者への減税効果が高いことが特徴です。具体的な計算方法などについての情報は、当財団ホームページをご覧ください。

南スーダン「水と衛生改善事業」に関する帰国報告会を開催



2年目を終了した事業の進捗について報告する石原駐在員

本年7月9日、スーダンから南部が独立し、世界的にも注目されている南スーダン共和国。7月27日、当財団の会議室において、同国から一時帰国中の事業統括者が、当財団が2009年4月よりジョングレイ州トィッチイースト郡で行っている「水と衛生改善事業」について、1年間の活動を踏まえ報告を行いました。

発表では、できるだけ臨場感を味わっていただけるよう200枚に及ぶ写真を多用し、事業地の概要や現状をはじめ、当該事業の進捗状況について報告しました。参加者からは、「話がわかりやすく、とても興味深かった」、「写真が多く、現地の様子がわかりやすかった」との声をいただきました。当財団は、今後も事業担当者の帰国の機会を捉え、報告会を行ってまいります。

シェフとつくる!うんめえいわて!第二弾「いわて創作料理教室」を開催



子どもたちも手打ちパスタに挑戦しました

本年6月に実施した料理教室の参加者の方々からの熱いリクエストにお応えし、再び古川義明シェフ（岩手県花巻市出身、銀座アルコ・イリス）を講師にお迎えして9月3日、『シェフと作る第二弾いわて創作料理教室』を開催。小さいお子様を含め、25名の参加者が、岩手の味と時間を共有しました。

前回に引き続き、岩手産直の新鮮な食材を利用したレシピを用意し、今回はさらに、参加者白らがパスタの手打ちに挑戦。子どもさんの参加者はもちろん、大人も大興奮の時間となりました。加えて、今回の参加者には岩手に縁のある方が多かったことから、CAREの現地活動報告の他、参加者の方々に岩手への想いを語っていただきました。全参加者が一体となって耳を傾け、岩手に、そして岩手の被災者に心を寄せるひと時となりました。

三鷹国際交流フェスティバルに初出店



CAREのブースを訪れた子どもたち

秋晴れに恵まれた9月25日、第22回三鷹国際交流フェスティバル（三鷹国際交流協会主催）にブースを出店し、当財団の事業地の一つであるベトナムのデザート「チェ」とベトナム・アイスコーヒーを販売しました。2名のボランティアさんが前日の準備から、当日にはさらに6名のボランティアさんも加わってお手伝いいただき、延べ300名の方々にベトナムスイーツを味わっていただきました。また、子どもたち向け参加型ワークショップも実施、楽しい時間を過ごしました。

今回初めての出店でしたが、多くの一般市民の憩いの場である井の頭公園で開催されたこともあり、これまでCAREのことを知らなかった皆さまに、CAREについて、またCAREの活動地について知っていただく良い機会となりました。



CARE International Japan スタッフ紹介



005
宮古事務所
総務・経理担当
上坂 則雄

私は震災後、宮古事務所で総務・経理担当として採用されました。この度の震災には宮古職業訓練校でパソコンの訓練を受けているときに遇いました。幸い私の家は高台にあり無事でした。

自宅には姉が避難してきており、翌日からは毎日「雪掻きの次は泥掻きじゃ」と毒づきながら姉の家の片づけをしておりました。姉の家は小さな避難所の傍にあり、毎日、避難所で暮らしている方や救援物資を受け取りに来る方を目の当たりにしておりました。正直、「私たちと比べてずいぶん不公平だなあ」と神様を恨みたくなりました。ただ、皆が、知らない人でも会うたびに挨拶を交わしているのを見て、救われる気持ちにもなりました。この人たちのために何かできないかと思いつつも、目の前の片づけに追われ歯痒い思いをしていました。

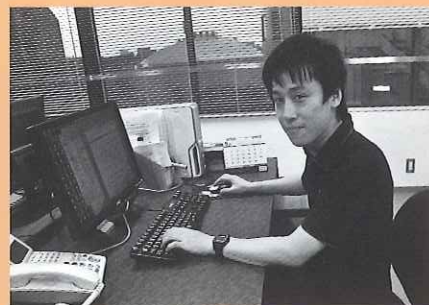
姉の家も大分片付いたころ、宮古職業訓練校の支援員の方から応募を勧められました。国際NGO、テレビや新聞ではよくは目にする名前ですが、実際の活動は全く知らず、CAREと言われても、途上国で学校造ったり井戸を掘ったりしているところかぐらいの認識しかありませんでした。しかし、面接で説明を受けたりリーフレットを読んだりするうちに、宮澤賢治の『雨にも負けず』の「東に病の子供あれば・・・」の一節を思い出し、非常に好感を持ちました。面接等の反応は、好感触とは言えなかったので、「この度は、ご応募いただき・・・」の内容の文書が送られてくると思っておりました。ところが、予想に反して採用いただき驚きました。

採用していただきました以上は、被災された方々と地域の復興のために一所懸命努めさせていただきます。

また、宮古事務所は、JR宮古駅から徒歩5分ぐらいの便利なところにあります。炊き出しチームが去った後は少し寂しくなりましたが、現在スタッフは2名増え、生活支援チーム2名、心のケアチーム2名、ドライバー2名と私の全員で7名です。皆、元気で仲良く話題と笑いの絶えない事務所です。是非、遊びにいらして下さい。

私スタイルの CAREライフ

マーケティング部インターン
河合 裕司



東京事務所にて執務する河合さん

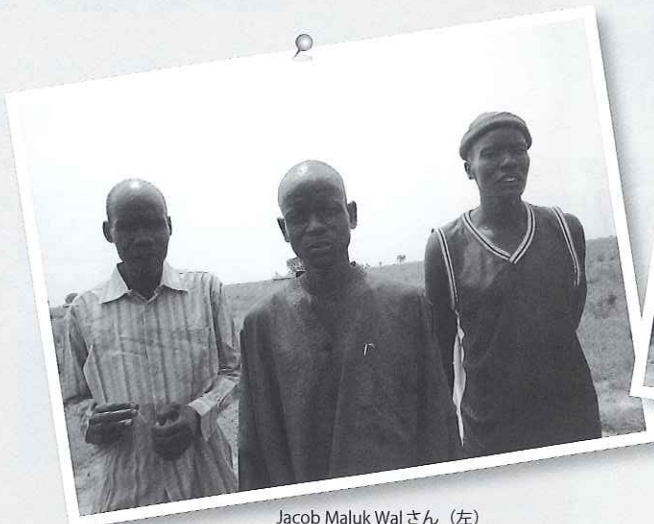
私は大学で国際開発学を専攻していたことと、途上国の路上で幾度も物乞いをする子供たちに出会い衝撃を受けたのをきっかけに国際協力に目覚め、「何とかしたい」の一心で国際協力の業界を目指してきました。進学したイギリスの大学院を卒業後、国際協力の現場を経験するためインターン先を探していたところ、CAREに出会いました。

マーケティング部インターンとしての業務は、HPの更新や翻訳作業から始まり、チャリティイベントの運営やアンケート集計など、広報ならびにマーケティング全般に関する多くの仕事を任せていただきました。このCAREでの日々を重ねるにつれ、私が今まで大学学部、院で学んだNGOというのは表面上の物だけでしかなく、実際にはそれを支えるスタッフ一人ひとりの膨大な努力の積み重ねによって初めて支援プロジェクトを運営し、活動していけるのだと実感することができました。

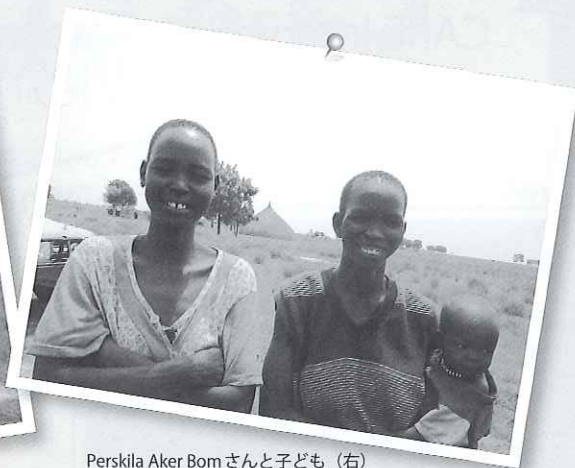
最も印象に残ったのは、3月11日に発生した東日本大震災に対する緊急支援です。震災2日後には事務所と呼ばれ早急に緊急募金ページの開設し、翌週には緊急支援物資の配送、そしてその後は個人寄付金の受付という業務に関わることになりました。非常に多忙な日々ではありましたが、震災向けの多くの寄付を受け取った時、振込用紙に小さく「頑張ってください」と書いているのを読んだ時、岩手県の被災者の方々からのアンケートに書かれていた「本当にありがとう」との言葉を読んだ時、忙しさを忘れ、頑張ろうという気持ちになりました。

「CAREで良かった!」と思う点は、スタッフ会議や打ち合わせなど、重要な場面にもCAREメンバーの一員として参加をさせていただけたことです。それゆえ、単にインターンとして業務を経験するだけではなく、一スタッフとして責任感と愛着感、そしてやりがいを感じて働く事が出来ました。私の1年間のCAREライフはあっという間に過ぎて行きました。残念ながら私は国際協力の業界を一旦離れ、一般企業に就職しますが、ここで得た経験は必ず将来、国際協力の舞台に戻ってきた際に役に立つと思います。

CAREストーリー ～南スーダンの誕生～



Jacob Maluk Walさん (左)



Perskila Aker Bomさんと子ども (右)

本年7月9日、世界で最も新しい国家、南スーダン共和国が誕生しました。

これまで、スーダンにおいては、北部にアラブ系のイスラム教徒が、南部にはアフリカ系のキリスト教徒や土着宗教の信者が、それぞれ暮らしてきました。1956年の独立前は、お互いの交流が制限されていたこともあり、両者は激しく対立しました。それは、アフリカ大陸史上最長で、第二次大戦後、最も多くの犠牲者を出したといわれる内戦となりました。

今年初めの歴史的な国民投票の結果、「南スーダン」は独立しましたが、独立当初から南スーダンは、世界の最貧国です。

- ・ 7人に1人の女性が出産中に死亡しています
- ・ 84%の女性は読み書きができません
- ・ 国民の半数が飲料水を得る水源へのアクセスがありません
- ・ 9人に1人の子どもが5歳まで生きられません
- ・ わずか3分の1の国民しか学校に通っていません

当財団は、南スーダンのジョングレイ州トイチイースト郡において、水と衛生改善事業を行っています。この地域では、安全な水へのアクセスが極端に少なく、人々は河川や水たまりといった不衛生な水源に頼らざるを得ません。また、トイレなど衛生施設の絶対的な不足と衛生習慣の欠如などが地域の人々の健康を害する大きな要因となっています。また、ニーズが高いかかわらず、輸送手段が制限され、移動が困難であることから、援助団体の支援も限られています。政府の井戸掘削な

どの技術的能力もなく、対象地では十分な対応策がとられていません。

このような状況の中、当財団は、井戸や学校用トイレの建設、衛生啓発活動等を行っています。CAREによる井戸の維持管理に関する研修を受けたJacob Maluk Walさんは、「水管理委員会を作り、地域住民と話し合っ井戸を使う際のルールを決めました。委員会が各家庭から毎月2ポンド(約60円)ずつ集め、保管しています。」と話します。故障した際の修理代として積み立てているとのこと。

子どもをもつPerskila Aker Bomさんは、井戸ができ、「毎週か、それ以上頻繁に」子どもに水浴びをさせられることを喜んでいました。これまでは月に1回か限られた時にしか水浴びをさせられなかったといいます。また、「この井戸を使う地域の人たちで相談し、子どもはこの井戸を使ってはいけないと決めました。子どもたちはいつもこの手動ポンプで遊びたがるので、子どもたちがふざけて壊してしまわないか心配なのです。この素敵な井戸には、ずっと水を出し続けてもらいたいのです。」と続けました。

CAREは、スーダンにおいて30年以上にわたる活動実績を有しています。南スーダンに加え、北スーダンにおいても、水・衛生・衛生教育・基本的な保健医療、栄養・生活支援といったプログラムを通じて、災害や紛争で被害を受けた家庭に対し緊急支援を行っています。

(マーケティング部 甲斐 博子)

～個人支援者専用ダイヤルを設置しました～



個人支援者専用ダイヤル TEL: 03-5944-9931

ケア・インターナショナル ジャパン
ニュースレター
CARE World Vol.19
2011年10月31日発行(季刊)
発行人: 黒川 千万喜
編集: 甲斐 博子

※ 小誌へのご意見、ご感想を募集しています。上記発行元までお寄せください。
※ このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアさんのご協力により、制作されています。

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375
E-mail: info@careintjp.org
www.careintjp.org

宮古事務所
〒027-0083 岩手県宮古市大通3-4-15 2階
TEL: 0193-77-3812 FAX: 0193-77-3813